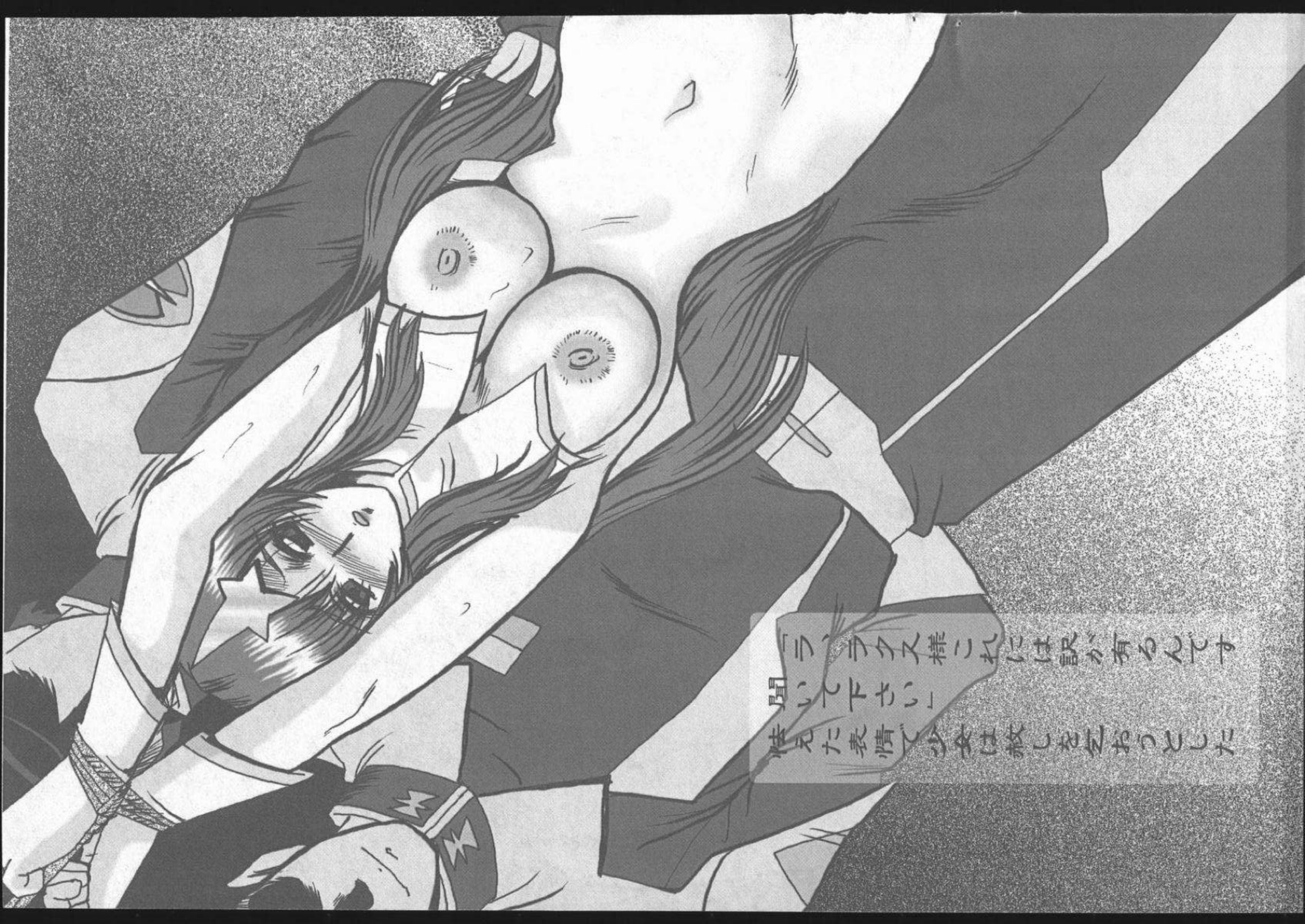
歌姬
深田拓士個人誌

歌姫調教

「ようやく御会い出来ましたわね
ニセモノさん♡」
ラクスは部屋の中央で裸のまま縛り上げられ
震えている自分と同じ顔の少女に微笑みかけた


聞「ラ[illegible]ク様りん[illegible]話が有るんだや
[illegible]て下さい」
[illegible]た表情で[illegible]
[illegible]

「私と同じ顔を持っていながらその様な下品で不様な胸をぶら下げて殿方の前で歌を歌うなど絶対に許せませんわ」
そう言うとラクスは哀れな囚われの少女の乳首を強く捻り上げた

「あッあぁッ……」
少女は乳首をねじ切られそうな痛みと恐怖にただ耐える事しか出来ないでいた

「ウフフ♡ホラニセモノさん
これが本物のラクス・クラインのオッパイですわ
さぁ、たんと味わって下さいな♡」
「あッあぷッ！」

「あんなハレンチな格好で胸を揺らせてお踊りになるんですものきっと殿方のモノが大好きに違いありませんわね♡」
「ですからあなたには特別に殿方を用意いたしましたわ♡どうぞ思う存分楽しんで下さいな」
「そ、そんな嫌……」

「ククク……それじゃあお姫さまがお待ちかねの
極太チ○ポをそのいやらしいオマ○コに
ブチ込んでやるぜ」
男はそう言うと少女の膣口にその肉棒を押し付けた
「や……止めて下さいお願い……」
少女は息も絶え絶えに哀願した
ぬちゅッ

「はあぁァッ！入って来てるゥッ！
硬くて太いモノが私のオマ○コに
ズブズブって入って来てるのォッ！」
少女は汗にヌメッた白い肌を仰け反らせて
喘ぎ続けた
ぢちゅ…
ずぼぼっ

「ホラホラ自分だけ愉しんでるんじゃないよチ○ポはまだまだあるんだぜ」
背後から貫かれたまま少女は目の前に差し出された肉棒に舌を這わせ始めた
ぴちゃ

「こいつの穴思ったより気持ちいいぜッ
まるで本当のラクス様を犯してるみたいで
最高だッ！」
男達は口々に勝手な事を口走りながら
少女の肢体を弄んだ
ぶじゅッ
ずぶッ

ぐちゅぐちゅ
ぐちゅッ
「おッお願いです…もう止めて下さい
これ以上されたら私おかしくなっちゃうッッ！」
身体中の穴と言う穴を全て貫かれながら
少女は喘ぎ続けた

「へへへッ
こいつ自分から腰を動かし出したぜ
おまえは本当はチ○ポが大好きな淫乱女なんだろ？」
男達の言葉に答えるかの様に少女は身体をくねらせた
「あふぅ♡
そうなの私はチ○ポ大好きないやらしい女なの
いやらしい私にもっとザーメンドピュドピュッ
てかけてぇ♡」
ズブ
ズブ

「せっかくあなたの為にクラックスタイルの御手洗いを用意したんですものそんなに遠慮しなくてもいいんですのよ♡」
「ホラ、我慢は身体に良くありませんわ思う存分お出しになって下さいな♡」

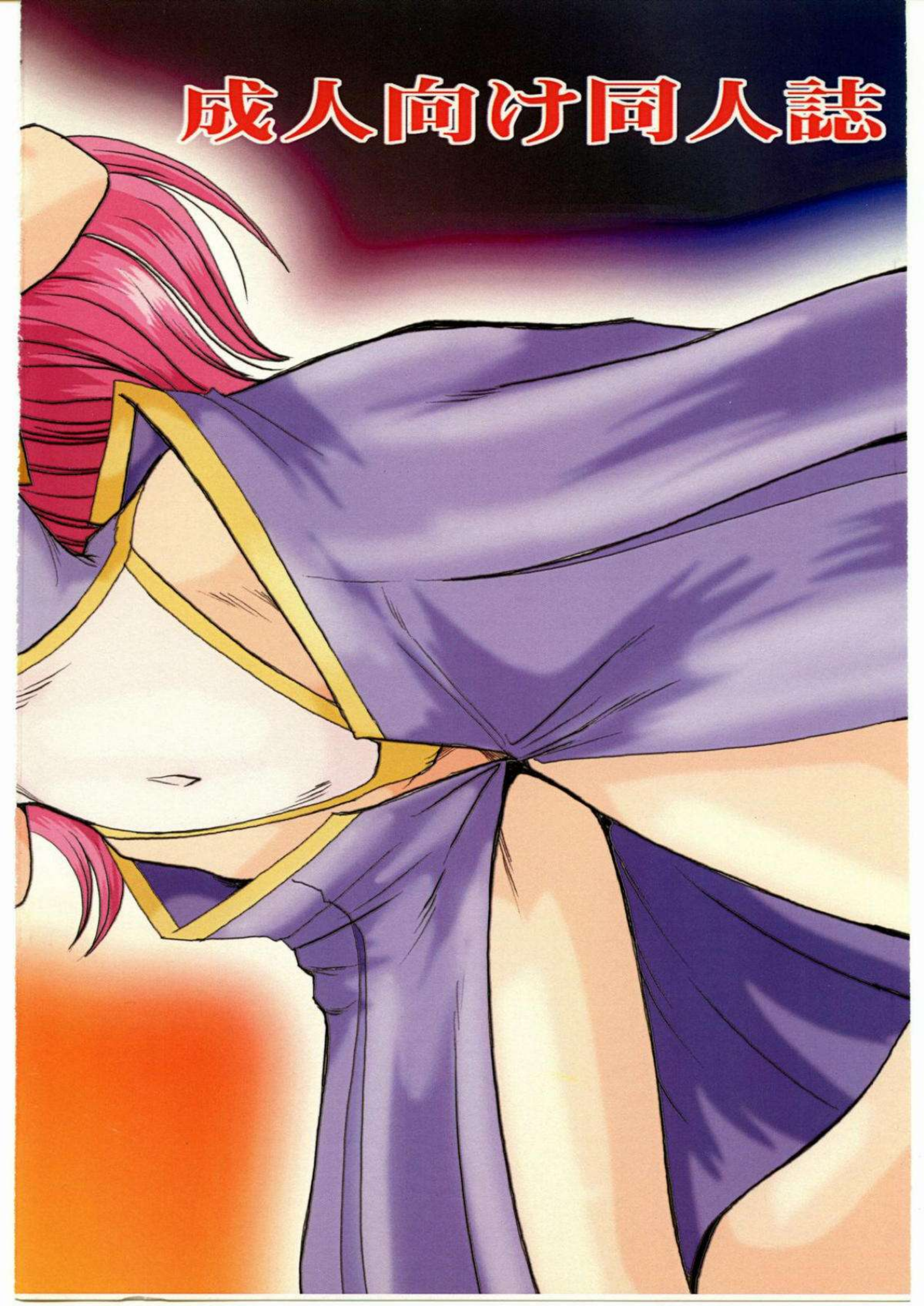
「あぁッもう駄目ッ！
出ちゃう出ちゃうウ〜ッ！」
少女は耐えきれずに股間から
黄金色の液体を吹き出しはじめた
ジョボボッ

「だ、駄目、止まらないの……
いッ嫌ァ……見ないでッ見ないでエ～ッ！」
少女の意識とは裏腹に生暖かい液体は少女の
秘唇から止めど無く溢れ続けた

後記

今のお仕事やりながらだと
これが精一杯です～
これ以上はやっぱりお休み
貰わないと無理みたい
ですね(^ ^;)

奥付
誌　名：歌姫
発　行：ぱるぷんて
発行日：2005/10/09


成人向け同人誌